目次

読解編 第1部

1 説明的文章の読解 …… 4
2 説明的文章(1) …… 8
3 説明的文章(2) …… 13
4 説明的文章(3) …… 18
5 説明的文章(4) …… 23
6 説明的文章(5) …… 28
7 説明的文章(6) …… 34
8 説明的文章(7) …… 40
9 説明的文章(8) …… 46

読解編 第2部

10 文学的文章の読解 …… 52
11 文学的文章(1) …… 56
12 文学的文章(2) …… 62
13 文学的文章(3) …… 68
14 文学的文章(4) …… 74
15 文学的文章(5) …… 80
16 文学的文章(6) …… 86
17 文学的文章(7) …… 92
18 文学的文章(8) …… 98

読解編 第3部

19 韻文の読解 …… 104
20 韻文(1) …… 110
21 韻文(2) …… 114
22 韻文(3) …… 120

SAMPLE

読解編 第4部

23 古典の読解 …… 124
24 古典(1) …… 128
25 古典(2) …… 134
26 古典(3) …… 138
27 古典(4) …… 142

言語・知識事項編 第1部

28 文法(1) …… 148
29 文法(2) …… 152
30 文法(3) …… 156
31 文法(4) …… 162

言語・知識事項編 第2部

32 語句の整理 …… 168
33 語句(1) …… 172
34 語句(2) …… 175

言語・知識事項編 第3部

35 文学史の整理 …… 179
36 文学史(1) …… 181
37 文学史(2) …… 183

言語・知識事項編 第4部

38 漢字の整理 …… 185
39 漢字(1) …… 187
40 漢字(2) …… 189

付録

① 用言活用表 …… 191
② 助動詞活用表 …… 192

SAMPLE

10 文学的文章の読解

学習日　月　日

ポイントチェック

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（大阪教育大附属平野・改）

SAMPLE

〈宮本輝「二十歳の火影」より〉

□(1) **脱文の挿入** 本文中からは、次の一文が抜けています。本文中に入れるとすればどこが最も適切ですか。この文が入る場所の直後の一文の、最初の五字を書き抜いて答えなさい。

〈だがたとえそのために死んでしまうことになっても、トカゲはきっと自分の体を貫いているこの釘を抜いて欲しいに違いない。〉

□(2) **適語の補充** Ⓐ・Ⓑに入る最も適切なことばを、それぞれ本文中から、Ⓐは二字、Ⓑは八字で書き抜いて答えなさい。

Ⓐ

Ⓑ

□(3) **細部をとらえる** 本文中には、ある部分とある部分（いずれも二十五字前後）との順序が逆になった表現を含んでいるために、文脈上破たんをきたしている一文があります。その文を探し、元の正しい語順に改めた表現に直して書きなさい。

□(4) **心情をとらえる** ——線①「頭を上げる」とは、ここではどんな意味に用いられていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア　他のものを圧して勢力を伸ばす
イ　激しい痛みに起き上がる
ウ　他者の圧力に屈せずからいばりをする
エ　苦しさを乗り越えて元気を出す
オ　自分の弱さを恥ずかしく思う

□(5) **比喩表現をとらえる** ——線②「太い錆びた釘」の「釘」は、〔何をどうするもの〕の比喩ですか。〔何〕には文中の二字熟語を用いて、十字以内（句読点も字数に数えます）で答えなさい。

□(6) **内容をとらえる** 本文を内容の上から大きく二つの部分に分けた場合、後半はどこからとするのが最も適切ですか。その最初の一文の初めの四字を書き抜いて答えなさい。

SAMPLE

要点の整理

小説や随筆などの文学的文章の読解問題では、話の設定や、登場人物の心情、文章の構成などが問われます。とは言っても、実際の試験では様々な設問のパターンがあります。多くの問題にあたって、その基本的な解き方を自分のものにしていってください。

それでは、前頁の例題のそれぞれの設問について、その解き方を考えてみましょう。

(1) **脱文の挿入** このような問題では、まず、抜け落ちている部分をよく吟味し、手がかりを見つけて、その部分が入る場所をしぼりこんでいくことが大切です。

例題の場合、脱文中に「だがたとえそのために死んでしまうことになっても」とあることにまず注目します。「(トカゲが) 死んでしまうこと」になるようなこととは何かと考えれば、「釘を引き抜く」ことだと気づくことができるはずです。また、「トカゲは～この釘を抜いて欲しいに違いない」とあるのですから、まだ、釘を引き抜く前であることがわかりますね。これらのことから、この文の入る可能性があるのは、「私」がトカゲへのつぐないとして「『釘を抜いたる』」と言ったところから、その六行後にある「私は力ましかせに釘を引き抜いた」までだと特定することができます。そこで、この部分をていねいに読み込んでみます。「それは私の勝手な感傷であった」の一文の「それ」の指し示す部分、つまり「勝手な感傷」の内容にふさわしい部分がどうも本文中にはないようですが……。

(2) **適語の補充** 空欄にあてはまることばを考える場合、まず、その空欄の部分が、その文中でどのような働きをしているかを考えなくてはなりません。その空欄の部分を修飾していることば、その部分に修飾されていることば、あるいは、その部分の主語になることば、その部分の述語にあたることばなどを手がかりにして、文脈に沿った、ふさわしい内容を特定していきます。

例題を見てみましょう。

Ⓐ では、この部分には、後の「襲う」の主語にあたることばが入るということがわかります。「体の一部になってしまっている」「釘」を引き抜くことによって、何が「トカゲの体を襲う」か、と考えてみましょう。体の一部になっている釘を引き抜けば、当然それに癒着している肉や内臓も出てきてしまうはずです。……とても痛そうですね。ここから、トカゲの強い痛みを考えることができるはずです。擬人的表現になりますが、「強い痛みが襲う」という表現がぴったりくるようです。しかし、本文中から書き抜くという問題ですから、ここで「痛み」と書いてはいけません。本文中から「強い痛み」を表す二字の表現を探しましょう。

Ⓑ では、「そのトカゲは」「去っていった」が、主・述の関係になっているので、Ⓑ には修飾することばが入り、後の「ゆっくりと草むらの中に去っていった」に係ってゆくということがわかりますね。ここ以外から、「トカゲがゆっくりと草むらの中に去っていく」場面の描写がされている部分を探しましょう。最後の形式段落では、「草むら」が「自由の天地」と言い換えられていますが、同じ場面が描写されています。ここから、去っていくトカゲの様子を表す、字数指定（八字）に合っている表現を抜き出しましょう。

(3) **細部をとらえる** 文章の細部を読み取る問題、特に、本文中の誤りを指摘するような問題では、最初に通読するときに気づかなければ、もう一度最初から読み直さなければなりません。時間に余裕があればよいのですが、制限時間のない試験はありませんから、最初の通読の時に集中力を働かせて一文一文の意味をとりながら読み、どうしても意味不明の部分には、線を引くなどして、目印をつけておくことを勧めます。

SAMPLE

例題の文章を読んで、変だと思った部分はありませんでしたか。16・17行目に「釘を打った時、」とありますが、おや、とは思わなかったでしょうか。この部分が何を修飾しているかを考えてみてください。どうもはっきりしませんね。この部分が文の中で浮いてしまっているようです。また、ここで内容面（「私」の心情）にも目を向けてみましょう。「私」の母が「なんで生きてるんやろ……」「……ようもまあ、こんなめに逢うたまま、生きてこられたなあ」と言っているように、「私」にとっても、どうしてトカゲの存在に気づかなかったのだろうという気持ちよりも、三年間どうやってトカゲが生きてきたのかという気持ちの方が強かったのではないでしょうか。そこまで頭に入れて、ある部分とある部分とを入れ換えて書き直してみましょう。

(4) **心情をとらえる** 文学的文章の読解では、心情の把握は特に重要といえます。登場人物の立場、性格、周りの状況などを加味して、その表現に込められている心情を読み取りましょう。

例題の中では、「そのトカゲに対する私の感慨はいくぶん形を変えてきた」とあるように、「私」のトカゲに対する思いの変化が書かれています。ここでは、「形を変え」る前の「トカゲに対する私の感慨」を考えます。同じ段落の冒頭に「何か辛いことがあると、私はそのトカゲのことを思うようにしてきた」とありますが、それはなぜでしょうか。同じ段落の最後に「自分は自由で、さらに人間だ」とありますが、これは「釘で射抜かれたまま、それでもじっと生きつづけていたトカゲに比べれば、（自分は自由で、さらに人間だ）」と補うことができます。つまり、あのトカゲに比べれば、自分の辛いと思う気持ちなどは甘えにすぎず、トカゲに、悩んでいる自分の目を覚まされるような気持ちがして「頭を上げる」ことができるからこそ、「私はトカゲのことを思うようにしてきた」のです。ここから、「頭を上げる」にあてはまる意味を考えてみましょう。

(5) **比喩表現をとらえる** 文学的文章では、様々な表現技法によって、その味わいが深められています。特に、想像力を働かせて比喩表現の意味を考えるということは、味わい深く文章を読む上でとても大事なことです。

例題の文章では、「太い錆びた釘」が主題に直結するキーワードとなっています。文字通りトカゲを三年間釘付けにした「太い錆びた釘」。なぜ「私」が、トカゲの「太い錆びた釘」を抜こうと思ったのかを考えてみましょう。最後の段落に「（釘を抜いたことによって）再びめぐり来た自由の天地へと～」とあることから、「釘」は、人間の人生においても、自由を得るためには引き抜かねばならないものである、と「私」が考えていることがわかります。ここから、「太く錆びた釘」の象徴しているものを考えてみましょう。

(6) **内容をとらえる** 場面の移り変わりや構成を読み取るためには、文章を大づかみに捉（とら）えて、いくつかのまとまりを考えることが必要です。書かれている内容の変化に注意しながら、段落同士のつながりを考えてみてください。

例題の文章は、「私」の家の引っ越しの際のトカゲの発見から話が始まっています。この話に、一区切りがつくのはどこかと考えてみましょう。このように考えることによって、本文を二つに分けるとすれば、一連の出来事が具体的に描かれている前半部と、そこから生まれた「私」の感慨が述べられている後半部とに分けることができるはずです。

以上のように、釘に貫かれたトカゲをめぐっての出来事と、それに対する主人公の思いが例題の文章の骨格となっています。文学的文章の読解では、まず設定（出来事）を把握し、そこで登場人物が思ったり、感じたりしたことを読み取るということが基本になります。

11 文学的文章(1)

学習日　月　日

1　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（筑波大附属駒場）

SAMPLE

〈吉行淳之介「食卓の光景」より〉

（注）闊達＝物事にこだわらずに余裕があること。
女給仕＝ウエイトレスのこと。

□(1) ――線㋐～㋔の漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字に直して答えなさい。

㋐	
㋑	
㋒	
㋓	
㋔	

□(2) ――線①「『困ったことになったぞ』」とありますが、ここでの「私」の「困ったことになった」という気持ちを具体的に述べたものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ただ見ているだけではなく、助けてやりたいと思うがめんどうくさい。
イ 自分の経験を思うと学生が気になって、無関心ではいられなくなりそうだ。
ウ 自分のところへ金を借りに来られたりして、かかわり合いになるといやだ。
エ 場違いな学生のためにせっかくの食事や会話をじゃまされてしまいそうだ。
オ 学生の醜態を想像すると、どうしても刺激的な気分になってしまいそうだ。

□(3) ――線②「自分の置かれた事態」とはどのようなことかを、わかりやすく説明しなさい。

□(4) ――線③「『馬鹿』と、私は思った」とありますが、その理由を書いて答えなさい。

□(5) ――線④「よろしい、その調子で頑張りたまえ」とありますが、この時の「私」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 同情　イ 失望　ウ 安堵（あんど）
エ 激励　オ 軽蔑（けいべつ）　カ 賞賛

□(6) 学生が困惑し、考え込んでいることがわかる表現を含んでいる一文を本文中から探し、その最初の五字を書き抜いて答えなさい。

SAMPLE

2　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（洛南・改）

SAMPLE

SAMPLE

〈井上靖「晩夏」より〉

（注）不倶戴天＝共に生きてはいないと思うほど恨むこと。

□(1) ――線㋐～㋒のカタカナを漢字で書いて答えなさい。

㋐

㋑

㋒

□(2) Ⓐ ～ Ⓒ には共通した一つの接続詞が入ります。それを本文中から書き抜いて答えなさい。

□(3) ――線①「私たちは一人前の子供としての資格を取り戻した」とありますが、これはどういうことを表していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 今まで都会の避暑客のために、家の仕事をあれこれ手伝わされてきたが、彼らがいなくなったので解放されたということ。

イ 夏の間、大人の避暑客たちに占領されていた村の海浜を取り戻し、子供らしい振る舞いをするようになったということ。

ウ 都会の避暑客に運ばれてきたきらびやかさで影が薄くなっていたが、それがなくなり普段の活発さを持てるようになったということ。

エ 八月も終わりに近づき、遊んでばかりいた村の子供たちも本来の生活に戻り、一人前の責任を負うようになったということ。

オ 村の子供たちを、薄汚い存在として敬遠してきた都会の避暑客がいなくなり、今まで通りの役割を持つようになったということ。

□(4) ――線②「不思議な力」とは何ですか。本文中から二十字で書き抜いて答えなさい。

□(5) ――線③「貫禄」、⑥「華奢」の意味として最も適切なものを、次のそれぞれから選び、記号で答えなさい。

□③「貫禄」

ア 身にそなわった威厳

イ 他よりひいでた能力

ウ 人を恐れさせる容姿

エ 気持ちの上での余裕

オ 人からのあつい信望

□⑥「華奢」

ア 華やかでどことなく粋（いき）なさま

イ ほっそりとして品がよいさま

ウ 見た目がよく人をひきつけるさま

エ すっきりとして清らかなさま

オ さっぱりとして感じがよいさま

SAMPLE

□(6) ――線④「私はうわっとありったけの声を張り上げて叫ぶと、そのまま波打ち際に突進し、波に体をぶっつけて、潮の中に頭を先にしてもぐって行く」とありますが、この行動は、主人公のどのような気持ちを表していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 恨みを抱いている彼女に、自分が直接何も手を下していないことに対するなさけなさ。

イ 都会からやって来た美しい彼女の目を、自分たちに向けさせることができたことへの喜び。

ウ あこがれの彼女に、三人の一年坊主だけが近づき、頭をなでられたことに対する嫉妬(しっと)。

エ 恨みの対象である彼女が怖い顔をしたので、自分がもっと怒らせてやりたいという欲望。

オ みなの手前恨んでいるふりはしても、彼女の美しさにひかれている自分へのもどかしさ。

□(7) ※ にはどのようなことばを入れればよいですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自分の欲深いことを表すことば

イ でしゃばっていることを表すことば

ウ 自分を低く扱うことを表すことば

エ 落ち着きがないことを表すことば

オ 子供らしくないことを表すことば

□(8) ――線⑤「私は口がきけなかった」とありますが、それはどうしてですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 毎日のように彼女をやっつけてばかりいるので、気が引けていたから。

イ 彼女があまりにも単純な質問をしてきたので、あきれてしまったから。

ウ 家の中にいる彼女の母親に、二人が会話しているのを聞かれたくなかったから。

エ 今まで大人びて見えていた彼女の美しさに間近に接し、とまどったから。

オ 彼女の何気ないしぐさやことばが、意外にも子供っぽく感じられたから。

□(9) 本文を場面の上から大きく二つに分けた場面、前半はどこまでとするのが最も適切ですか。前半の最後の八字（句読点も字数に数えます）を書き抜いて答えなさい。

SAMPLE